

橋本地区のサロン、ふれあいの家「ぬくもり」の活動

高齢者や子育て世代が集える場となる「ふれあい・いきいきサロン」、ふれあいの家「ぬくもり」は現在、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動を休止している状況ですが、皆さんの笑顔が早く見られるよう再開に向けて少しずつ動き始めています。



いきいきサロン

マスク、消毒を徹底し、3密にならないよう人数の制限、広い会場の確保など色々と工夫し、いくつかのサロンが活動を再開しています。(令和2年12月現在)



検温する!

いきいきサロンひだまり



人数を分けて実施しています



部屋を換気する!

いきいきサロン相原



回数を分けて実施しています



座席間を開ける!

いきいきサロン希望



大きな部屋で実施しています

ふれあいの家「ぬくもり」



「いきいき百歳体操」「将棋の日」「手芸・折り紙の日」「ぬくもり子育てサロン」は休止していますが、「ぬくもり喫茶」と「映画の日」は3密に注意し開催しています。(令和2年12月現在)

映画の日



人数を制限し換気し、座席間を開ける!

ぬくもり喫茶



開催情報についてはホームページで確認するか
橋本地区社会福祉協議会 TEL 042-775-8601 にご確認ください。
<http://www.sagamiharashishakyo.or.jp/chikushakyo/hashimoto/index.html>

不退転の気持ちで取組み、実りある結果を出したいと思っております。

思えば、今回の運営協議会も会長より、「いつ起きてもおかしくない大震災に対してコロナ感染を考慮したマニュアルの作成が出来ないか」との提案から、手探りの中、手を上げてくれたのが小山久保町自治会長「素案を作成するのに二週間程いただけるならば作りましょう」との発言がありお願いするところとなりました。

一週間程もかからず素案が届き、その内容は客観的な文献から紐解き自身の主張もなされ論理的です。また学校提供の設備の実態・インフラ等の確認と、それに伴う関係部署をも交えての交渉と精力的に行動され、それを反映されるよう改訂して今日に至っています。この様なマニュアルが完成したのも、これも人との出会いから始まりました。地域には素晴らしい方々の在任にも気が付き、様々な分野でその才能を発揮されています。

また宮上連合として目標がしっかりとっていたからこそ、タイミング良く、そして出来ない事を助けて頂ける人との出会いがありました。人を信じ協力をお願いする、共に助け合う、それこそが共助で地域力です。

共に地域の目標を達成する事、それこそが地域を魅力的にする一助と感じています。



あいはら

峰の薬師へ行く、歩き方教室、

よく晴れた十一月一日朝、相原公民館に、少し緊張したマスク姿の人たちが集まりました。コロナ禍の中で、不安やストレスを抱えた参加者と、笑顔で迎え入れる姿が頼もしい、感染防止のために工夫と努力を重ねてきた実行委員たちです。

準備運動が行われ、実行委員による歩き方教室が行われた後、峰の薬師へ向けて出発しました。足ならしを済ませ、上りの山道では、学習を生かして進みました。その後も苦しい山道は続きましたが、各自の頑張りに加え、実行委員の適切な助言により、離れての励まし合いや、無言で寄り添う姿が見られ、無事に峰の薬師に到着し、楽しい昼食を迎えました。ここで、元気を取り戻し、帰りの下り坂も、努力と励まし合いで、元気に乗り越えました。



を感じ、幸せな気分を味わいましょう。それが、幸福であり、福祉につながることにしたいと思います。

はしもと

感染症予防対策下のイベント企画と運営

コロナ禍が及ぼす各種活動への影響は計り知れません。橋本地区でも令和二年二月以降、定期的な催しはほとんど中止のやむなきに至りました。ボランティア活動も、特例を除いて中止となりました。

コロナ禍の完全終息まではまだ時間がかかりそうですが、やや落ち着いたを取り戻した頃合いで、一部の活動は再開しました。「ふれあいの家・ぬくもり」では喫茶と映画、別会場の一部のサロンも再開することができました。

中止が続く「いきいき百歳体操」の参加者からは、「体がなまこて元気が出ない」との声、そんな皆さんへのおすすすめは、FM放送「FMぞがみ」で毎日放送される「ラジオいきいき百歳体操」(月・金10:50/13:10、土10:35/12:05、日11:40/16:10)です。おなじみのかけ声に合わせて、ご自宅で元気に体を動かしてください。

麻雀・将棋・手芸の参加者からは、「楽しみがなくなつてがっかり」との声、早期の再開が切望されています。一方、万全の感染予防対策をとって再開した喫茶・映画、一部のサロンは、普段通り多くの方々が集われ、仲間同士のふれあいを大いに楽しんでおられます。

コロナ禍で行動範囲が狭められ、人とのふれあいが制限された皆さんにとって、再開した催しやサロンは、「ステイホーム」や「外出自粛」に過剰に縛られることなく、気軽に参加でき解放感を味わえる良い機会になっていて、人と接することの大切さを、いま改めて感じさせられます。

一日も早いコロナ禍の終息を祈りつつ、急速に変貌する橋本地区の近未来に向けて、地区社協は、しめ関係者が力を合わせて、新たな福祉ニーズにどう応えていくか、その曲がり角に立っているような気がします。

悪いことばかりではない、新たな展開の芽が育つことを祈る昨今です。